

(誤) → (正)

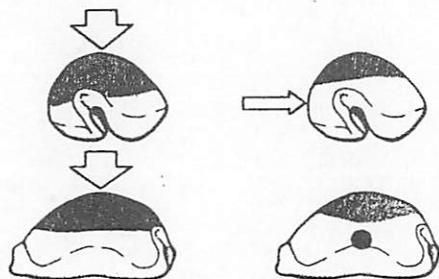
I ナガラ原東貝塚3

p.28 第8表 16 安座間原第一遺跡 → 16 安座間原第二遺跡

p.59 第35図 (写真中のキャプション) IV下 → IV上

IV上 → IV下

p.31 第25図のキャプションは以下の通り



⇨ 敲打方向 ● 敲打点 ■ 破損部位

II 河原第3遺跡

p.3 第2図 (スケール) 450m → 5m

III 資料報告

p.10 第7図 (スケール) 5cm → 10cm

p.13 第9図 (スケール) 5cm → 10cm

図版7 (3段目写真のキャプション、右から2番目) 8 → 9

# 考古学研究室報告

## 第 36 集

- I ナガラ原東貝塚 3
- II 河原第 3 遺跡
- III 資料報告  
2000年考古学研究室の足跡

2 0 0 1

熊本大学文学部考古学研究室

表紙写真

(表) 上空より伊江島と沖縄本島を望む

(裏) 貝符

## 序 文

今年も琉球列島伊江島と、九州阿蘇で実習をおこなった。どうしたことか、二つの現場とも台風と長雨にたたられ、番狂わせが多かった。

伊江島での前半は台風6号の雨、わずかな晴れ間を見て出発しては、全身泥だらけで戻る日が続いた。5日め、雷の何度も光った一夜が明けると、遺跡に隣接する自然の暗渠は周辺の水を集めて地表にあふれ、現場のテントと器材は泥に埋まっていた。雲が去ると中4日は晴れた。が、今度は東から一直線にきた大型の台風8号が空を覆い、半径100kmを暴風雨圏に巻きこみながら伊江島上空を這うように去った。

当初、私たちは三つのグリッドを発掘する予定であった。どう掘るか、が台風接近前の現場最大の課題となった。大学院生の新里・中川両君が中心となって、皆の考えを聞いた。計画を縮小・変更した方がよいとする考えと、貫徹すべきだという考えに3年生の意見が分かれた。2年生は的確な指示をもらえる方がいい、と言った。応援の4年生も意見を述べた。結局リーダーは後者でいくことを決め、この強行を皆も納得したようであった。さてそれからの3日間、各グリッドとも早朝から殺気だった遺物取り上げ作業が続き、誰もが動きに動いた。私は、学生の変貌に圧倒されてしまった。やがて約束したように台風来襲、現場作業は包含層完掘をまたず打ちきりとなった。最後に見事な貝符を2年生がぼろりと出して、上級生たちの羨望をかった。

阿蘇西原の現場も悪天候の連続で、リーダーの安武君は気をもんだ。こちらは旧石器遺跡の初めての現場だが、過去4年継続したAT下位遺跡調査の延長上にある。期待を背負ってのスタートであった。

どんなに計画をたてて臨んでも、現実はやはり思い通りにいかないものだ。状況に応じた現場の精一杯の判断が発掘調査の成否を決めることを体験させてくれたのが、今年の実習だった。さて、その調査成果は昨年と比べて深まっただろうか。忌憚のないご批判をお願いしたい。

今年も多くの方々に助けていただいた。伊江村では、地権者の安里誠夫氏、玉城恵一氏ほか、伊江村教育委員会、沖縄県教育委員会、B&Gセンター、サンゴ荘、民宿上間、阿良区の方々には物心両面で援助していただいた。宇田津徹朗、亀里敏郎、岸本義彦、黒住耐二、白木原和美、高宮広土、樋泉岳二、当山昌直、友寄敬、中村愿、平山廉、藤江望、藤原宏志、松本幡郎各氏にはご指導、ご協力を賜った。西原村では、小谷桂太郎氏を初めとする西原村教育委員会各位、遺跡発見者の福田正文氏、そして、伊藤昌弘、岩谷史記、岡本真也、木崎康弘、杉原敏之、高橋慎二、林充彦、藤木聡、松本茂、宮崎拓、山下実、山下宗親、吉留秀敏など九州旧石器文化研究会の皆様にご協力・御指導を賜った。関係の皆様、この場を借りて厚くお礼申しあげる。

それなりの実習ではあった。でも、来年は晴れてほしい。

2001年1月

木下 尚子

# I ナガラ原東貝塚 3



空からみた伊江島と遺跡周辺の地形（1945年1月撮影、黒丸が遺跡の位置）  
上の写真は縮尺1/55,000。下の写真は実体視可能。

## 例 言

- 本編は熊本大学文学部考古学研究室による沖縄県国頭郡伊江村字川平1061-1・1062-1・1071-1番地所在のナガラ原東貝塚の調査報告である。
- 発掘は実習調査として研究室が起案し、伊江村教育委員会・沖縄県教育庁文化課の協力を得て実施された。
- 調査は2000年7月27日から8月10日までの15日間実施した。
- 脊椎動物、軟体動物、植物遺存体、プラント・オパール の鑑定、分析については順に早稲田大学樋泉岳二、千葉県立中央博物館黒住耐二、札幌大学高宮広土、宮崎大学宇田津徹朗・藤原宏志の各先生にお願いした。また、1998、1999年度調査で出土したカメ類の鑑定、分析を沖縄県文化振興会当山昌直、帝京平成大学平山廉両先生にお願いした。
- 坂元紀乃担当の魚骨の鑑定指導は早稲田大学樋泉岳二先生に、獣骨の鑑定指導は鹿児島大学農学部西中川駿先生にお願いした。
- 石材および鉱物の鑑定は元熊本大学理学部松本幡郎先生にお願いした。
- 調査期間中、熊本大学名誉教授白木原和美、沖縄県公文書館資料編纂室岸本義彦、北谷町教育委員会中村 愿の各先生に指導を受けた。
- 巻頭図版は米軍撮影の空中写真を国土地理院長の承認を得て掲載したものである。
- 本編の編集は新里亮人がおこない、執筆分担については執筆者名を各文末に示した。
- 本編におけるレベル高はすべて海拔をあらわし、方位は真北をあらわす。
- 本編の挿図と図版の遺物番号は対応する。
- 調査参加者・整理作業者は以下の通りである。  
甲元眞之 木下尚子 杉井健 (以上教官)  
新里亮人 中川毅人 (以上大学院1年生)  
橋口剛士 (学部4年生)  
内田美穂 菊池義明 坂口三輝子 坂元紀乃 田代理恵 檀佳克 丸地見典 三浦和之  
満留花子 宮本千恵子 安武寛文 矢羽田幸宏 (以上学部3年生)  
安部茂明 伊福修三 江頭俊介 芝康次郎 西嶋剛広 前田耕輔 松本周作 村田勉 (以上学部2年生)

## 本文目次

一 位置と環境	1
二 調査の経過	3
三 調査の成果	4
1. 層序	4
2. 遺物の出土状況	6
3. 貝塚の形成	8
4. 出土遺物	10
(1)土器	10
(2)石器	17
(3)貝製品	23
(4)自然遺物	29
四 自然科学的分析	35
1. 2000年のナガラ原東貝塚調査で得られた食用貝類遺存体（予報）	35
2. ナガラ原東貝塚の水洗選別試料より検出された脊椎動物遺体（第3報）	40
3. ナガラ原東貝塚から出土したカメ類について	47
4. ナガラ原東貝塚出土の植物遺体（2000年度）	50
5. ナガラ原東貝塚の出土土器および遺跡土壌のプラント・オパール分析	58
五 まとめ	67

## 挿図目次

第1図 伊江島の遺跡分布および地下水流路	2
第2図 遺跡周辺地形図および調査区位置図	3
第3図 調査区平面図およびコラムサンプル位置図	4
第4図 土層断面図	5
第5図 遺物出土地点平面および垂直分布図	7
第6図 IV下層の貝殻出土位置図および合併したシャコガイ右殻・左殻の出土レベル差	9
第7図 出土土器実測図（1）	12
第8図 出土土器実測図（2）	13
第9図 沖縄貝塚時代後期土器の変遷図	16
第10図 出土石器実測図（1）	18
第11図 出土石器実測図（2）	19
第12図 植物質食料加工具組成割合	21
第13図 1998・1999年度ナガラ原東貝塚出土有孔貝製品の重量分布	23
第14図 2000年度ナガラ原東貝塚出土有孔貝製品の重量分布	23
第15図 出土貝製品実測図（1）	24
第16図 出土貝製品実測図（2）	25
第17図 出土貝符実測図	27
第18図 広田様式の貝符	27
第19図 広田様式貝符出土遺跡分布図	28

第20図	出土貝類組成図	30
第21図	出土貝類生息域組成図	30
第22図	シャコガイ科殻長組成	31
第23図	貝殻破損状況	31
第24図	タカラガイ科破損状況詳細	31
第25図	タカラガイ科敲打実験模式図	31
第26図	ブダイ科前上顎骨タイプ別模式図	32
第27図	北2東1グリッドのIV下層でみとめられたミドリアオリガイ密集層	36
第28図	リュウキュウヤマガメの背甲の骨板と甲板	48
第29図	リュウキュウヤマガメの外側からみた腹甲の骨板と甲板	48
第30図	北2東1グリッドサンプリング地点	54
第31図	北3西1グリッドサンプリング地点	54
第32図	サンプリング風景	55
第33図	ナガラ原東貝塚出土の炭化種子	57
第34図	分析土壌の採取位置（北3西1グリッド）	59
第35図	分析土壌の採取位置（北2東1グリッド）	59
第36図	分析をおこなった土器	61
第37図	プラント・オパール定量分析結果（北3西1グリッド）	64
第38図	プラント・オパール定量分析結果（北2東1グリッド）	64
第39図	検出されたプラント・オパール	65

## 表目次

第1表	伊江島遺跡一覧表	2
第2表	出土土器分類・集計表	11
第3表	出土土器観察表	14
第4表	出土石器計測値一覧表	20
第5表	植物質食料加工具出土遺跡一覧表	22
第6表	出土有孔貝製品計測値一覧表	26
第7表	出土皿状貝製品計測値一覧表	26
第8表	広田様式貝符出土遺跡一覧表	28
第9表	出土貝類遺存体集計表	30
第10表	出土動物名および重量・骨片数一覧表	32
第11表	動物骨出土位置一覧表	34
第12表	ブダイ科各部位計測値一覧表	34
第13表	沖縄県伊江村ナガラ原東貝塚から出土した貝類遺存体	37-39
第14表	ナガラ原東貝塚2000年度調査で採取した脊椎動物遺存体分析用試料	43
第15表	ナガラ原東貝塚2000年度脊椎動物遺存体分析用試料の構成要素	43
第16表	ナガラ原東貝塚2000年度採取試料における魚骨・獣骨・貝殻の包含密度と焼骨率	43
第17表	ナガラ原東貝塚1998～2000年度採取試料における魚骨・獣骨・貝殻の包含密度と焼骨率の比較	43
第18表	ナガラ原東貝塚 TT00A（VII層）より検出された脊椎動物遺体	43

第19表	ナガラ原東貝塚 TT00B (IV層) より検出された脊椎動物遺体	44-45
第20表	ナガラ原東貝塚 TT00B における魚類・爬虫類・哺乳類遺体の組成	46
第21表	ナガラ原東貝塚北2東1・北3西1グリッドの植物遺体	56
第22表	分析に用いた土器	58
第23表	ナガラ原東貝塚におけるプラント・オパール定量分析結果 (北3西1グリッド)	62
第24表	ナガラ原東貝塚におけるプラント・オパール定量分析結果 (北2東1グリッド)	63
第25表	プラント・オパール土器胎土分析の結果	63
第26表	サンプル2の土器から検出されたプラント・オパール密度	63

## 図版目次

巻頭図版	空からみた伊江島と遺跡周辺の地形	図版 3	土器 (1)
図版 1 上	ナガラ原東貝塚近景	図版 4	土器 (2)
中	北2東1グリッド	図版 5	石器
	IV下層検出状況	図版 6	貝製品
下	北3西1グリッド	図版 7 上	貝符
	IV下層検出状況	中	貝類遺存体 (1)
図版 2 上	北2東1グリッド	下	貝類遺存体 (2)
	貝集積	図版 8 上 左	貝類遺存体 (3)
中	北3西1グリッド	右	ホシダカラ製品(A)と敲打実験後のホシダカラ(B)の比較
	貝符出土状況	中	敲打実験後のホシダカラ
下	調査終了時遺跡近景	下	脊椎動物遺存体